

平素より、当メールマガジンを御愛読いただきありがとうございます。
いよいよ梅雨入りとなり、夏へ向かっておりますが、いかがお過ごしでしょうか。
お手隙の際に本メールマガジンをご覧いただければ幸いです。
5月配信のメールマガジンは以下の内容でお送りいたします。

◎目次

- 地域公共交通確保維持改善事業に係る制度拡充等について
(公共交通政策部)
- 「萌え」で地域交通の活性化！～沿岸バスの事例～
(北海道運輸局)
- NPO再生塾と協働で人材育成研修を開催しました
(近畿運輸局)
- 『バスの乗り方教室』を開催しています
(沖縄バス株式会社)
- 編集後記

○地域公共交通確保維持改善事業に係る制度拡充等について (公共交通政策部)

地域公共交通確保維持改善事業については、当メールマガジン3月号において平成25年度政府予算概算決定の状況についてご紹介しておりますが、このほど同年度予算が成立しましたので、改めて詳細をお知らせいたします。

平成25年度予算において、本事業では、地域協働による持続可能な生活交通の確保・維持を図る観点等から、拡充措置を講じております。具体的には、以下の拡充を行いました。

○地域協働推進事業の創設

持続可能な地域公共交通体系を構築するためには、地域の関係者が協働・連携しながら確保・維持に向けた取組みを推進することが必要であり、特に、地域ぐるみによる利用促進が必要かつ効果的であると考えられます。このため、それらの取組みの実施を地域公共交通活性化法に基づく地域公共交通総合連携計画に位置づけることなど一定の要件の下に、モビリティマネジメントの実施や公共交通サービスの情報提供など、地域ぐるみの利用促進に係る取組みに要する経費について、国が補助する制度を創設いたしました。

○バス交通に対する支援の拡充

バス交通については、前述の地域協働推進事業を実施すること(地域協働推進事業の実施に関する計画について、国の認定を受けていること)などの一定要件を満たす系統について、支援の拡充を行いました。

具体的には、地域間幹線系統については、輸送量要件や補助対象経費の算出方法について特例措置を講じるほか、地域内フィーダー系統についても、補助対象要件の緩和措置を講じるものです。

また、これらの措置に加え、東日本大震災の被災地域における地域内の生活交通の確保・維持の取組みに対する支援拡充として、地域内のバス交通等の確保・維持に対する支援に関し、一定要件の下で補助上限額の引き上げを行うという拡充を行いました。

○鉄道事業再構築事業による鉄道の安全設備整備等への支援の拡充

鉄道事業再構築事業を実施する鉄道事業者が行う安全設備整備等への補助について、一定要件の下、国の補助率を1/3から1/2にかさ上げするという拡充を行いました。

国土交通省では、これらの予算措置も活用しながら、今後とも地域公共交通の確保・維持・改善に取り組んで参ります。

○「萌え」で地域交通の活性化！～沿岸バスの事例～(北海道運輸局)

「らき☆すた」の埼玉県久喜市(旧鷺宮町)や「けいおん！」の滋賀県豊郷町など、「萌え」をまちおこしに活用している自治体は比較的存在しますが、今日は「萌え」を地域の足の確保のために活用しているバス会社を紹介します。

北海道の留^{るもい}萌^{はぼろ}管内羽幌町に本社を置く沿岸バス(株)は、フリーエリア内であればバスが乗り放題になる上に、協賛施設で優待が受けられる企画きっぷである「萌えっ子フリーきっぷ」を2009年から発行しています。

もともとは、北海道の留萌支庁(現留萌振興局)がバスで留萌地方の旅をゆっくりと楽しむ企画として発案したところから始まったようですが、一般の企画きっぷとの大きな違いとして、担当者の強い思い入れもあり、「留萌」の「萌(え)」にちなむ形で、非常に萌え要素の強いキャラクターを全面にあしらっているのが大きな特徴です。

しかも、券種によってキャラクターが異なるばかりか、毎年新しいキャラクターが増えており、現在5thシーズンを迎え全部で14人になるため、きっぷ自体をお土産としてコレクションする楽しみもあります。

当然このきっぷ自体を目的に来る人も多いようですが、このきっぷのフリーエリアは、通称「日本海オロロンライン」という南北160kmにも及ぶ非常に北海道らしい風景を味わえる風光明媚な道路がほとんどですので、この風景に魅了されてリピーター化する人も多いとか。

キャラクターの名前は、全て沿岸バスの沿線の地名や観光資源等にちなんでおり、今では沿岸バスが保有するバス車両(一部)にとどまらず、羽幌町沖合にある天^{てうり}売



やぎしり
島・焼尻島と羽幌町を結ぶフェリーや商店街にもこのキャラクターがラッピング・ペイントされているなど、地域ぐるみの観光資源にもなりつつあります。

キャラクターグッズとして販売されている缶バッジは、沿岸バス営業区域内のみでの限定販売にもかかわらず、2ヶ月で完売するなど大きな反響があったほか、有志による同人誌やスマートフォン用のアプリがリリースされるなど、熱狂的なファンだけでなく一般の方にもじわじわと人気と知名度が高まりつつあります。

きっぷ自体はフリーエリア内だけでなく、札幌・旭川・稚内といったフリーエリア外の都市でも買えますし、北海道外にお住まいの方は通信販売でも買うことができます。

北海道はこれから非常にいい季節になります。夏の旅行をご検討中の方はぜひ、北海道を選択肢の一つとしていただき、このきっぷを使って北海道ならではの美味しい食べ物とここでしか見られない「絶景領域」を楽しみにいらして下さい。

【沿岸バス HP】

<http://www.engan-bus.co.jp>



ONPO再生塾と協働で人材育成研修を開催しました(近畿運輸局)

平成25年4月26日(金)、近畿運輸局において「地域公共交通確保・維持・改善研修」を開催しました。

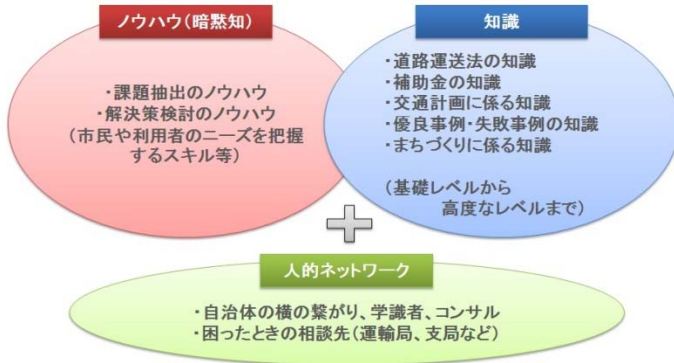
本研修は、地方自治体の交通政策担当者や関連する担当者(特に初めて交通施策を担当する方)を対象として、道路運送法、確保維持改善事業補助制度、交通計画に関する基礎知識の習得、課題解決のプロセスを学ぶことを目的にしたもので、初の試みとして「NPO法人持続可能なまちと交通を目指す再生塾」(以下「再生塾」)との協働により開催しました。

当初定員50名として案内しましたが、予想を大きく上回る応募があり、最終的には101名(地方自治体85名、再生塾生9名、運輸支局等7名)の参加となりました。研修会当日は、決して気温の高い日ではありませんでしたが、会場内は100名を超える人により、熱気あふれる状態となりました。

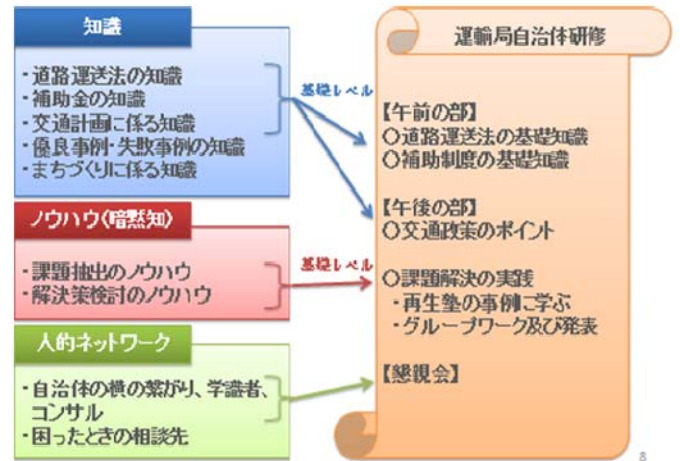
研修は加納交通企画課長の開会挨拶・本研修会の趣旨説明により始まり、午前中は、バス交通を担当するにあたり必要な基礎知識として、当課及び自動車交通部旅客第一課から「道路運送法の基礎」、「補助制度の基礎」について説明を行いました。

交通政策担当者に必要な知識、ノウハウの全体像

- 交通政策担当者が地域の公共交通の問題を解決するためには、第一に、市民や利用者のニーズを把握するスキルなど課題抽出等のノウハウが必要であり、それを実現する道具として、道路運送法や補助金等の知識を身につける必要がある。
- 実際の問題解決においてはこれらの知識等以上に人的ネットワークが重要であることが多い。



本研修の位置づけ



午後からは、京都大学大学院土井特定教授より交通政策のポイントとして「なぜ交通が大事なのか」といった根本的な話から、「モビリティ確保・向上」、「まちづくりの思想」等、新しく交通担当になった方にも交通の必要性、課題についてわかりやすく講義をいただきました。

続いて、再生塾生が昨年度、各地域の課題について検討した2事例についての発表が行なわれました。

一例目は京都バス(株)の協力のもと、新たな交通サービス導入(急行着席型バスの運行)による課題等を分析し、快適なサービスの実現に向けた提案を、二例目は河内長野市の協力のもと、衰退の連鎖が続く郊外住宅の再生についての検討結果を発表しました。

続いて研修員を10班に分け、グループワーキングを行い、再生塾生に各班のファシリテーターとして参加いただきました。グループワーキングは互いの意見を傾聴し合い、議論や否定をしないとといった一定のルールのもとに進められ、各班ごとに問題意識を共有した後、その課題発表を行いました。各班互いに問題意識を共有した間柄であり、発表者が質問に対して困っても、他の班員が助けるといった光景も見られました。



土井教授より交通政策のポイントの説明



グループワーキングの様子

発表後は各班の発表について再生塾理事からコメントをいただきました。土井特定教授からは「敬老MMといった、自身が気づかないような面白い発想があった。」、神戸大学 正司教授からは「皆さんオーバーランせず話をしてくれた。人は皆良い意見を持っている。」、大藤氏からは「多様な問題意識があり、精錬されたワーキングとなった。」と評価されました。

終了後いただいたアンケートによる研修会全体に対し、

◇もっと頻繁に研修会を行ってほしい。

◇自分たちの上司を対象とした研修会を行ってほしい。

◇本日聞いた内容よりもステップアップした研修を受けたい。

以上のようなご意見をいただき、開催側としては嬉しい反面、人材育成に対する責任の重さを強く感じる次第です。

近畿運輸局では、今後もさらに奮励努力し、より地域活性化に貢献出来る人材育成研修や、公共交通の重要性を広く訴求するためのシンポジウムを企画・開催していきたいと考えています。

○『バスの乗り方教室』を開催してます(沖縄バス株式会社)

沖縄バス(株)では、路線バスをもっと身近な乗り物に感じてもらう為、平成22年度より地域貢献の一環として『バスの乗り方教室』に取り組んでおります。(3年間で12学校32教室 ※合同開催含む、もちろん無料で開催)

この教室は、単に乗車方法や運賃の支払い方法だけを学ぶものだけではなく、路線バス利用に関する事故防止やマナー向上も狙いとしており、主に小学校の児童生徒を対象に実施しております。



実際に使用している低床バス車両を用いて、乗降時の注意事項、特に安全・マナーの向上に重点を置き、学校周辺を走行するルートを設定し、バスに乗車しながら気を付けてほしいポイントを説明しくことにより、実際に乗車しながら学んでもらうことで強く印象付けることができます。



また、この教室に「低床バス」車両を用いている事から、小学校の特別支援学級や特別支援学校からのご要望にもお応えし、幅広く開催して参りました。

この取組により、交通安全意識だけではなく他者への思いやり等、その後の学校生活に活かせる体験ができます。



その他、バスの運転席に座る体験(運転手の目線等)や運賃投入体験、車イスでの乗降体験も実施しております。

路線バス利用に慣れてもらい、進級・進学、更に社会人へとになっていく中で積極的な公共交通利用や思いやり、モラルのある人格形成につながればと考えております。

【沖縄バス(株)の概要】

沖縄本島に所在する大手4社に位置付けられる事業用バス約250両と従業員約500名(いずれも一般貸切りバス事業を含む。)を有する一般乗合旅客自動車運送事業者。(http://okinawabus.com/)

○編集後記

いつもご愛読いただきありがとうございます。国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課の門井です。

5月16日付けの人事異動により、菊地より担当変更となりました。いろいろと至らぬ点があると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、私の挨拶は程々に初代編集長の菊地より、皆様へのご挨拶をさせていただければと思います。

先日まで公共交通政策部交通計画課におりました菊地です。先日異動となり、公共交通メールマガジンの編集者を卒業することとなりました。

当メールマガジンについては、まだまだ手探りでやっているところも多く、読者の皆様のニーズにお応えできているか等見直すべき課題が多々あると感じています。しかし、出張や講演等で出会った方から、「メールマガジンを読んでいます。楽しみにしているので、今後も頑張って続けてください。」と有り難いお言葉をいただく場面があり、これを励みに配信を続けることができました。異動に伴い、当方は担当から外れてはしまいますが、引き続き、公共交通メールマガジンをよろしくお願いいたします。

読者の皆様をはじめ、配信に携わる地方運輸局の皆様、執筆者の皆様には、心より感謝いたします。長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。

…最後だからもっと長く書けと？真面目なだけではつまらないですか？それでは♪

編集後記のネタは思いついた時に頭の片隅にストックしているのですが、ひとつ、書けなかったものがあります。それは『小型船舶免許1級を取得した話』です。私事ですが、3月に先述の免許を取得しました。1級ですと、沿海や湖沼だけでなく、外洋航海も可能になります(太平洋横断の予定もなく、何を思ったのか1級を取ってしまいました)！

さて、当方の出身地には離島地域があるのですが、島と島の間が狭いため、小型船で行き来しています。あの渡し船がどのような仕組みで運営されているのか調べたことはないのですが、とても重要な生活の足となっています。小型船舶免許も手に入れましたし、将来は離島地域で地域公共交通の確保に従事してみるのもありかもしれませんね。

相変わらず中身の無い文章で恐縮ですが、最後に息抜きとして読んでもらえていれば幸いです。最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました！

★全国に是非とも共有したい情報等ございましたら、下記問い合わせ先または最寄りの地方運輸局企画観光部交通企画課まで御連絡ください。

【問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 門 井

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3(中央合同庁舎 3 号館 3 階)

TEL : 03-5253-8274 (直通) FAX : 03-5253-1513

E-mail : koutukeikaku_joho@mlit.go.jp

国土交通省HP(情報発信のページ) :

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

国土交通省総合政策局公共交通政策部ゆるきゃら のりたろう

